

おおたがわ ひろしまわん
太田川と広島湾
いっしょう
(アユの一生)

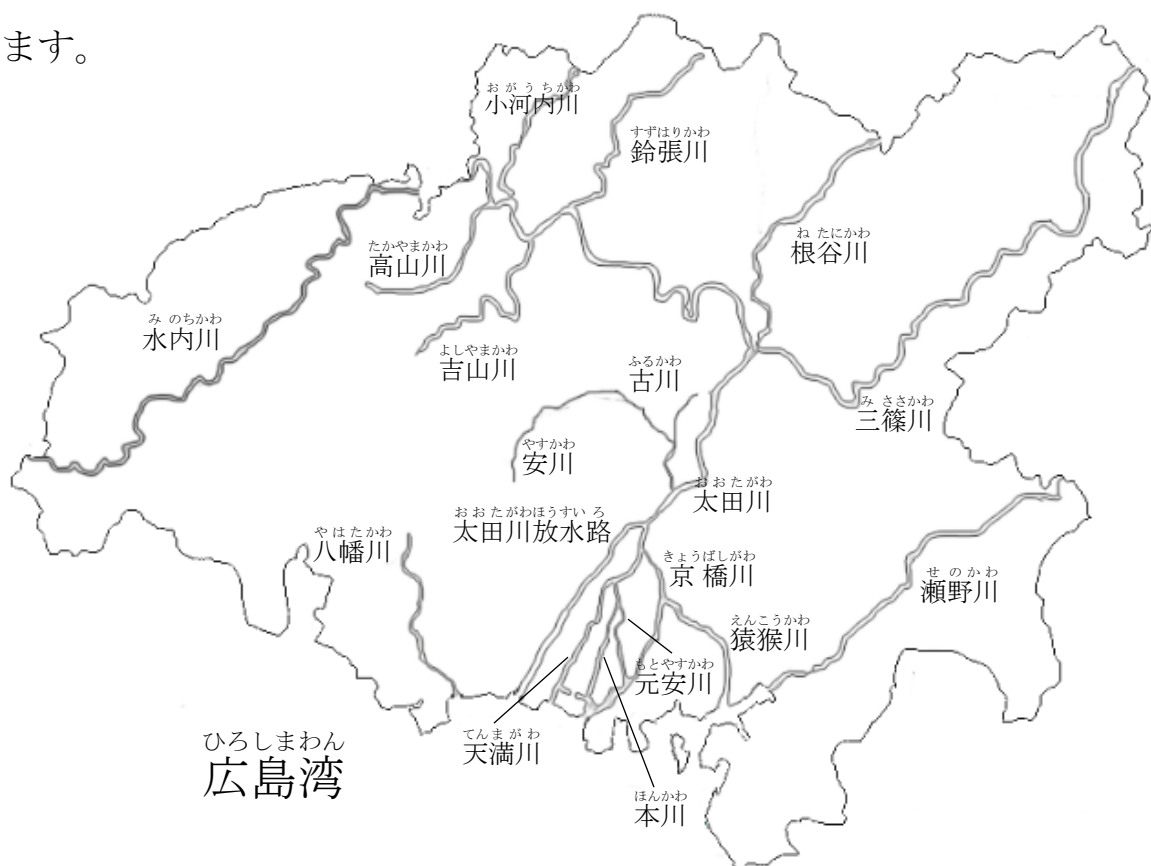


1 おおたがわ ひろしまわん 太田川と広島湾

ひろしまし おおたがわ
広島市には「太田川」をはじめとするたくさんの河川が流れており、それらが
ひろしまわん なが こ
「広島湾」に流れ込みます。

みどりゆた ちゅうごくさんち えいよう かせん つう ひろしまわん はこ
緑豊かな中国山地の栄養がこれらの河川を通じて、「広島湾」へ運ばれるこ
とから、湾内は、しょくもつれんさ きそ しょくぶつ ほうふ
とから、湾内は、食物連鎖の基礎となる植物プランクトンが豊富であり、それ
らえさ どうぶつ どうぶつ えさ さまざま
を餌にする動物プランクトンや、さらにその動物プランクトンを餌とする様々
なぎょかいりい せいそくばしよ
な魚介類の生息場所となっています。

ゆた うみ ひろしまわん おんけい う ぎょしゆ おおたがわ
この豊かな海である「広島湾」の恩恵を受けている魚種の1つに、「太田川」を
だいひょう さかな ちぎよ あいだ うみ す せいちょう
代表する魚である「アユ」がいます。アユは、稚魚の間を海で過ごし、成長、
さんらん かわ そじょう さかな ちぎよ せいちょう てき かんきょう
産卵のために川に遡上する魚です。アユの稚魚の成長に適した環境である
ひろしまわん おおたがわ しな い かせん てんねん そじょう
「広島湾」があることが、「太田川」などの市内の河川に天然のアユが遡上する
おお よういん おおたがわ しょうかい
大きな要因になっています。このテキストでは、「太田川」のアユについてご紹介
します。





ひろしまわん
広島湾



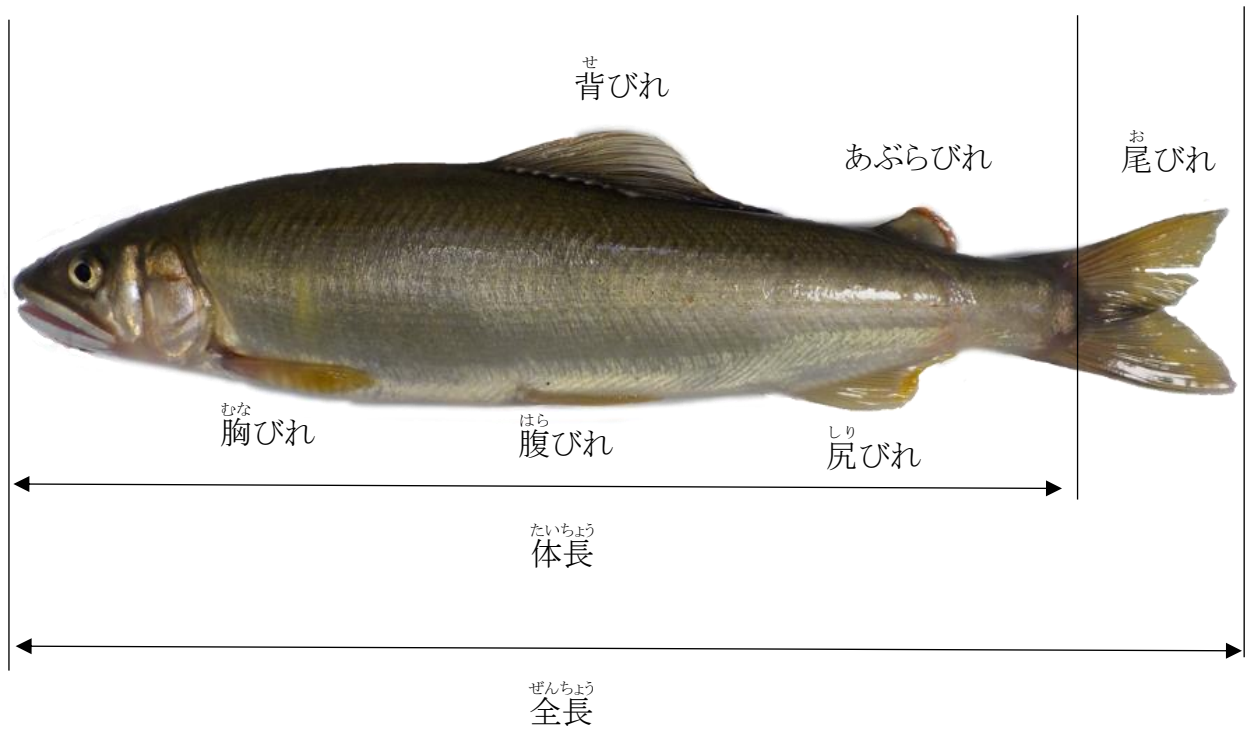
おおたがわ
太田川

2 アユとはどんな^{さかな}魚でしょう。

分類 サケ目^{もく}キュウリウオ科^か アユ属^{ぞく} アユ

分布 北海道石狩川^{ほっかいどういしかりかわ}から南日本^{みなみにほん}、沖縄^{おきなわ}まで生息^{せいそく}しています。

また、日本^{にほん}だけでなく、韓国^{かんこく}、中国大陸^{ちゅうごくたいりく}にも分布^{ぶんぷ}しています。

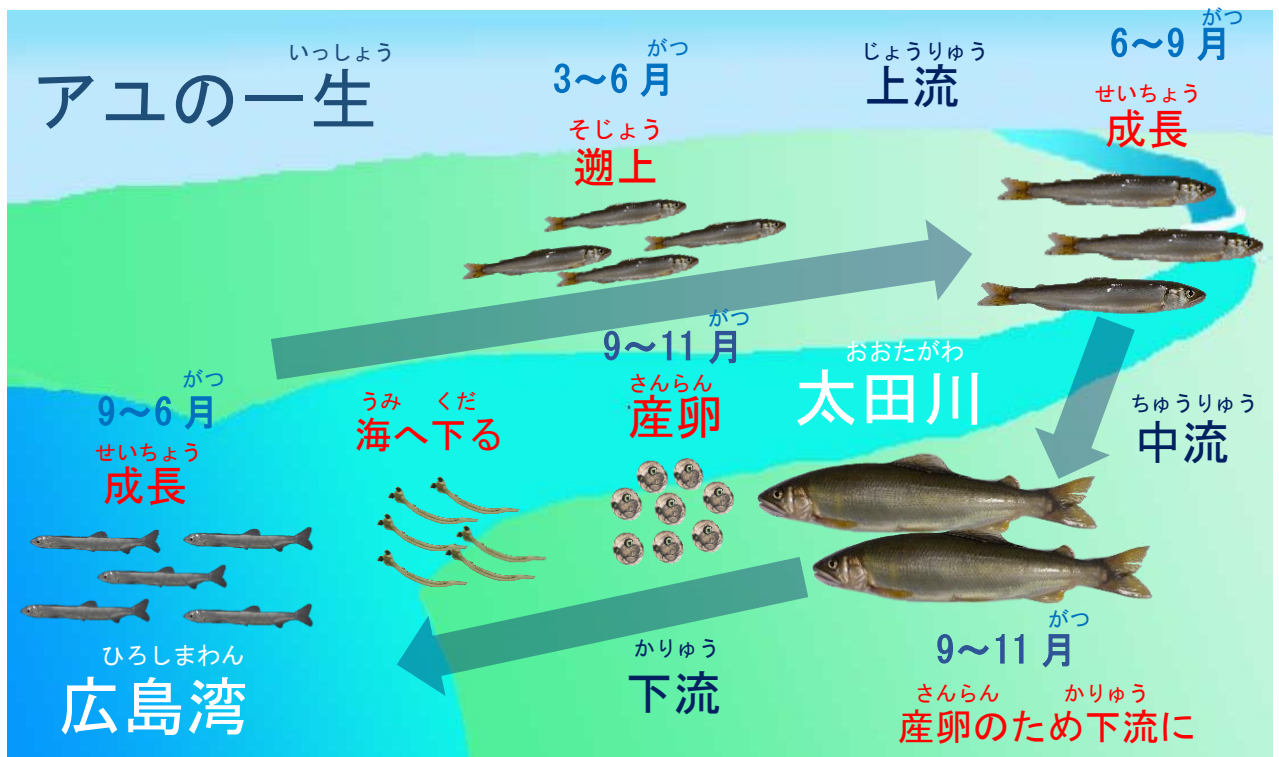


3 アユの生態

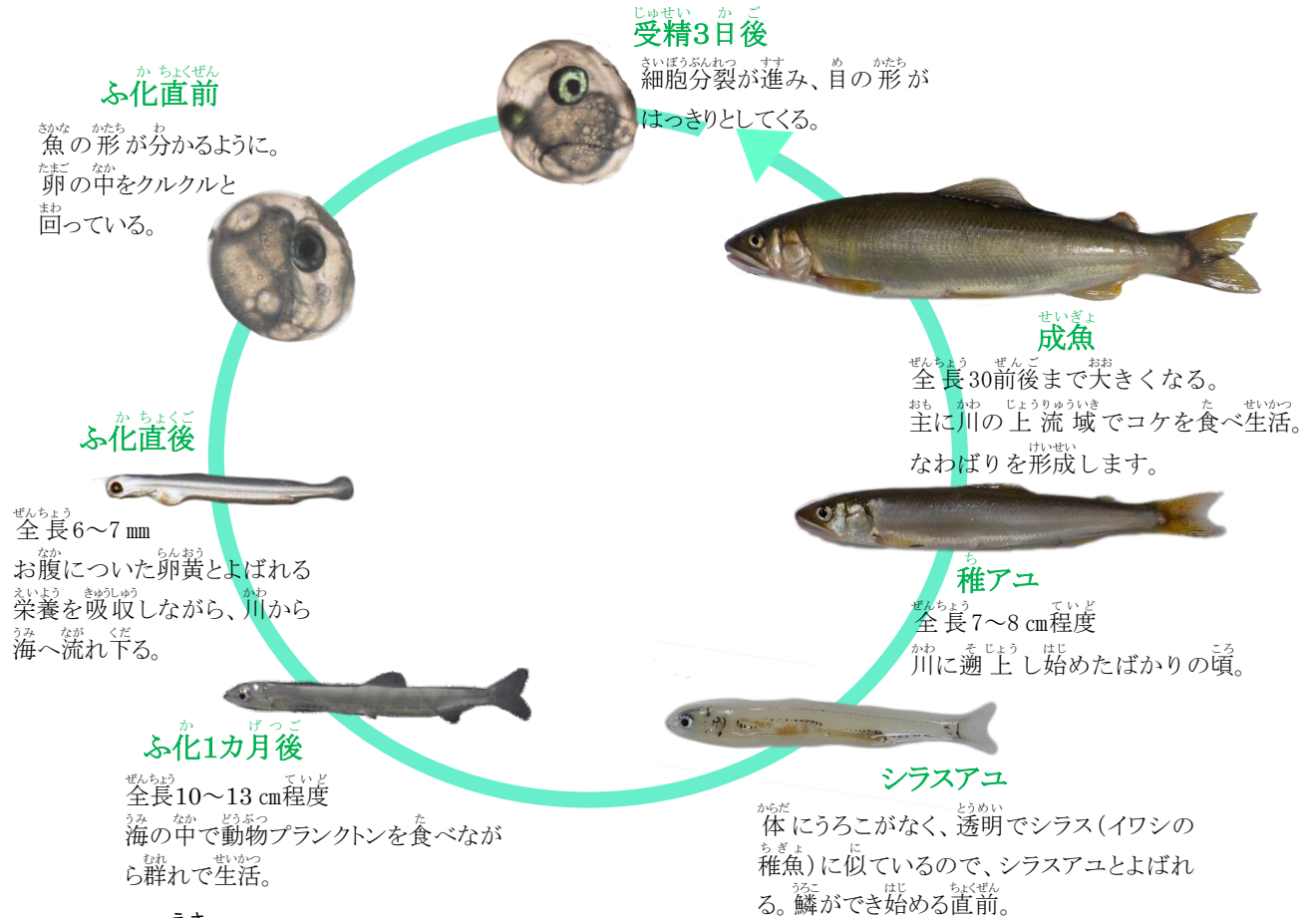
(1) アユの一生

アユは、秋（9～11月頃）に海や湖に近い川の下流で産卵し、そこでふ化したアユの赤ちゃん（全長6mm位）は、川を下って、海の中で冬を越し、翌春（3～5月頃）に稚アユ（全長5cm位）まで成長し、再び川を上ってきます。そして、再び、川の中で成魚（全長25cm位）まで成長し、秋に産卵し、その後、サケのように死んでしまいます。つまり、アユの寿命は1年であり、このような魚を「年魚」と呼びます。

アユと同じ「年魚」と呼ばれるサケは、産まれた川に帰ってくるという習性がありますが、アユには、産まれた川に帰ってくるという習性はありません。また、アユやサケのように一生のうち、川と海の両方ですみ分けする魚たちを両側回遊魚といいます。他にも両側回遊魚に分類される魚には、マスやウナギがいます。



アユの発生図



(2) アユの餌

アユは、海にいるときは、他の魚と同じように動物プランクトンを食べて成長しますが、川に戻るところになると成魚は、石の表面に生えたコケなどを餌にします。成魚は、コケを食べることから、アユの体にはコケの香りが染みついており、昔から「香魚」と呼ばれ、親しまれてきました。



(3) アユの産卵

川の上流域でたくさんのコケを食べて大きく成長したアユの成魚は、産卵期である秋になると海や湖に近い川の下流に集まってきます。

産卵のために集まったアユの成魚は夜になると、水深10～60cm位、流れがはやく、川底が5mmから3cmの小石や砂利になっている「瀬」と呼ばれるところで産卵します。

卵は小石や砂利に付着するように産みつけられ、約10～12日程度でふ化します。

産卵期の成魚のアユはオスもメスも婚姻色になり、体の色が赤黒く変色し、さびたような色になることから「さびアユ」と呼ばれます。特にオスの婚姻色は強く現れ、腹部がオレンジ色になるものもいます。





さんらん たまご
産卵された卵



さんらんご ちからつ
産卵後に力尽きたアユ



さんらん せ
アユが産卵する瀬



さんらん て き こいし
産卵に適した小石

4 てんねん ほうりゆう 天然アユと放流アユ

おおたがわ ひろしましな い かせん しぜんかい はんしょく てんねん
太田川をはじめとする広島市内の河川には、自然界で繁殖した天然のアユ

ぎょぎょうきょうどうくみあい ほうりゆう じんこうてき そだ せいそく
と漁業協同組合などが放流した人工的に育てられたアユが生息していま

す。これまで、まち はってん ともな かせん こうじ しんりんぼっさい すいしつあつか
す。これまで、街が発展することに伴う河川工事、森林伐採や水質悪化など

えいきょう てんねん かず げんしょう
の影響で天然のアユの数は減少してきました。

このため、つ ぎょぎょうまた しげん まも もくてき ぜんこく おお かせん
このため、釣り、漁業又は、アユの資源を守る目的で、全国の多くの河川

じんこうてき そだ ほうりゆう かつどう おこ
で、人工的にアユを育て、放流する活動が行われています。

ひろしましな い ぎょぎょうきょうどうくみあい ほうりゆう おこ ひろしまし
広島市内でも、漁業協同組合によるアユの放流は行われており、広島市

すいさんしんこう ぎょぎょうきょうどうくみあい ほうりゆう いちぶ せいさん
水産振興センターでは、漁業協同組合が放流するアユの一部を生産してい

ます。



アユの放流①



アユの放流②



放流用アユの飼育風景



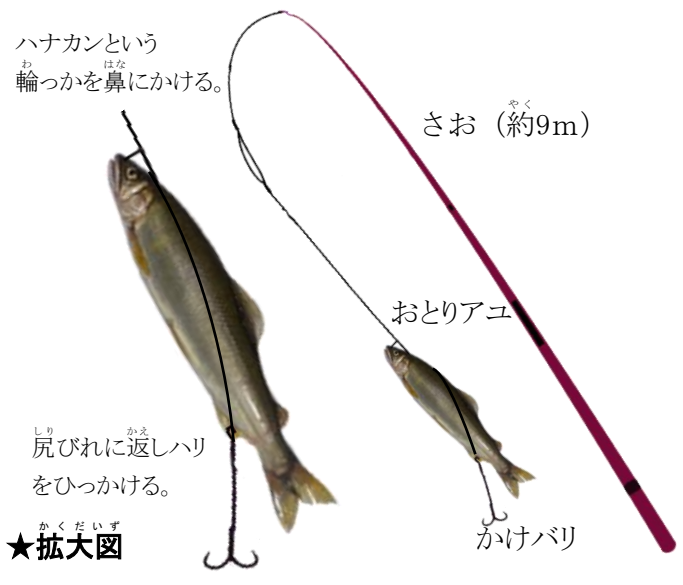
放流用アユの稚魚

5 アユの^{ぎよほう}漁法

アユは全国で古くから親しまれてきた^{さかな}魚であることから、^{ちいき}地域ごとに伝^{でん}
^{とうてき}統的な^{ぎよほう}漁法があります。例えば、^{たと}広島県内では、^{ひろしまけんない}江の川（^{ごう}三次市）の^{かわ}鵜飼漁
^{みよしし}などが有名です。^{うかいりょう}太田川の^{ゆうめい}アユ^{おおたがわ}漁^{りょう}には、^{おも}主に4^{しゅるい}種類^{ぎよほう}の漁法があります。

(1) ^つ釣り（^{ともづ}友釣り）

アユのなわばり^{しゅうせい}習性^{りょう}を利用した^つ釣り^{かた}方です。アユのなわばり^{なか}の中にお
^{しんにゆう}とりのアユを^お侵入^{はら}させ、^{ちか}追い払おうと近づいたアユを^{はり}針^ひに^か引^つ掛ける釣
^{かた}り方です。

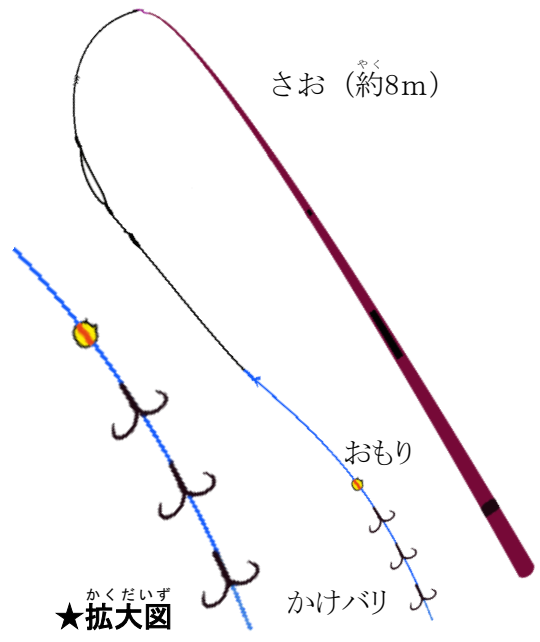


(2) 釣り (コロガシ釣り)

コロガシ釣りは、オモリと専用の掛け針を使って、川の流れの中で泳いでいるアユを引っ掛けて釣るといってもシンプルな釣り方です。

しかし、川の流れに合わせてオモリを選び、川底をオモリが転がるように一定の速さで竿を操作しなければならないため、技術の差が出やすく、難しい釣り方とも言われています。

まずは、コロガシ釣りでアユを釣り、そのアユをおとりにして、友釣りをする釣り人も多くいます。



(3) 投網とあみ

川の中に腰まで浸かりながら、アユの群れに向かって専用の網を円形に
広がるように投げ、被せて獲る漁法です。太田川でも昔から行われてきた
漁法の一つですが、網がしっかりと広がるようになるには、長年の経験が
必要です。



(4) 建網たてあみ

川を横断するように専用の網を設置し、その網にアユを追い込んで獲る
漁法です。夜間に木船に乗り、竹の棒で水面をたたきながら、アユを追い
込みます。

網を仕掛ける場所がポイントで、漁業者さんの長年の感が生かされる
漁法です。



6 天然アユを増やす取組

天然アユの減少を受け、太田川では、天然アユの遡上数を増やすための取組が行われています。例えば、太田川を代表する漁業協同組合である「太田川漁業協同組合」では、アユが産卵しやすいように、瀬の中の大きな石を取り除くなど、産卵場を整備する「産卵場造成」の取組や海へ流れ下るアユの赤ちゃんの数を底上げするため、人工授精させた卵をシュロというヤシの皮に付着させ、河川に設置する「受精卵放流」の取組などを進めており、広島市もこれらの取組のサポートを続けています。また、毎年の天然アユの遡上数や産卵数を確認するための調査を行い、取組の効果検証も進めています。

今後も太田川で漁獲される美味しいアユを市民に皆さんにたくさん食べていただけることを目指し、天然アユを増やす取組を進めていきます。





じゅせいらんほうりゆう
受精卵放流③



じゅせいらんほうりゆう
受精卵放流④



てんねん そじょうちようさ
天然アユ遡上調査①



てんねん そじょうちようさ
天然アユ遡上調査①



さんらんじようきようちようさ
アユ産卵状況調査①



さんらんじようきようちようさ
アユ産卵状況調査②



おおたがわさんてんねん しおや
太田川産天然アユの塩焼き①



おおたがわさんてんねん しおや
太田川産天然アユの塩焼き②